

# 音楽科学習指導案

指導者 福士 幸雄

- 1 日時 平成16年3月5日(金) 第5校時  
 2 学校・学級 水沢市立南中学校1年1組 男子 19名、女子 21名、計 40名  
 3 題材名 「様々な音素材の特性を生かして、イメージや曲想をもって創作表現しよう」  
 4 指導内容 学習指導要領・第1学年A表現の指導事項カ(キ、ク)から設定する。  
 a 様々な音素材の知覚と感受 b 表現したいイメージや曲想 c 自由な発想による音楽の構成

## 5 題材の目標

- (1) 様々な音素材に関心をもち、創作表現に意欲的に取り組む。
- (2) 様々な音素材の特性を感じ取って、イメージや曲想をもって創作表現の工夫をする。
- (3) 様々な音素材の特性を生かした創作表現をするための技能を身に付ける。

## 6 教材

- ・主教材 生徒が任意に選択した場所で収集した音素材(自然音や環境音を含む)
- ・関連参考曲 「日本語を歌・唄・謡う」(中山一郎編)  
 竹内さち子作曲「呼びかけ」(声、言葉、リズム、即興)  
 トッホ作曲「世界地図のフーガ」(声、言葉、リズム)  
 ウィリアム・シンシュタイン作曲「ロック・トラップ」(身体表現、リズム)  
 スティーブ・ライヒ作曲「木片の音楽」(打楽器、リズム、メロディ) ほか

## 7 題材について

学習指導要領の第1学年表現の指導事項カは、「表現したいイメージや曲想をもち、様々な音素材を用いて自由な発想による即興的な表現や創作をすること」を指導するように示している。また、指導計画の作成と内容の取扱いでは「表現及び鑑賞の指導に当たっては、適宜、自然音や環境音などについても取り扱うこと」とあり、音楽の素材となる様々な音に興味・関心をもち、生徒一人一人が表現や鑑賞の活動の中で感性や創造性を発揮し、自分にとって価値あるものを創り出していくことを求めている。本題材は、音楽の素材となる自然音や環境音を含む音素材を聴き取ったり、感じ取ったりしながら、その特性を生かして、自己のイメージや曲想とかかわらせて、創作表現する能力を育成するために設定した。

本題材では、主に次の内容を指導する。

- ① 自分の身の回りにある様々な音素材に気づき、それらの構造的側面を知覚し(本題材では音色や響き)、感性的側面を感じ取ること
- ② 様々な音素材の音質や音色及び響きなどの特性を生かし、イメージした情景や心情に合った創作表現をすること(本題材ではリズムや旋律のパターンと反復)

生徒は、日頃の音楽の授業では、歌唱、特に合唱を中心に学習しており、その他に数時間単位で器楽・創作・鑑賞の学習をしている。今次学習指導要領改訂の一つである「自然音や環境音」については、音楽の授業で学習する機会は、これまでほとんどなかったものと考えている。

そこで、これまでの学校における音楽の学習を振り返りながら、より広い見地に立って音楽をとらえるように指導したい。また、すべての音楽活動の原点ともいえるべき「音や音楽を注意して集中して聴く(耳を澄ます)」ことをとおして、音楽的視野の拡大を図りたい。その上で、音素材の音色や響きを知覚すること、音素材のよさや美しさなどを感じ取ることが意識しながら指導したい。さらに、これらの学習をとおして、音素材を選び、その特性を生かして、自分のイメージや曲想をもちながら、創作表現につなげていきたいと考える。創作表現の指導内容としては、リズムや旋律のパターンと反復を中心に指導を進め、それぞれの創作表現を共有することで、音楽的価値観の拡大を図っていきたい。

## 8 題材の評価規準

### 【A 表現・創作】

	観点1 音楽への関心・意欲・態度	観点2 音楽的な感受や表現の工夫	観点3 表現の技能
内容のまとめ り評価と規準	・表現したいイメージや曲想、様々な音素材に関心をもち、歌詞や楽器に合った旋律を作ったり自由な発想で即興的な表現や創作をしたりすることに意欲的である。	・音楽の構成要素・表現要素を知覚し、それらが生み出す曲想や美しさを感じ取っている。 ・表現したいイメージや曲想をもち、歌詞や楽器に合った旋律の創作、また様々な音素材を用いて自由な発想による即興的な表現や創作の工夫をしている。	・歌詞や楽器に合った旋律の創作表現をする技能を身に付けている。 ・表現したいイメージや曲想を、様々な音素材を用いて自由な発想で創作表現をする技能を身に付けている。
題材評価規準	・様々な音素材に関心をもって、創作表現に意欲的に取り組んでいる。	・様々な音素材の特性を感じ取って、表現したいイメージや曲想をもち、音素材の特性を生かした創作表現の工夫をしている。	・様々な音素材の特性を生かし、自由な発想で作品を記録したり、創作表現をしたりする技能を身に付けている。
学習具活体動の に評価規準	①様々な音素材に関心をもっている。 ②音素材の特性を生かし、自由な発想で創作表現することに意欲的である。	①様々な音素材の特性を感じ取っている。 ②表現したいイメージや曲想をもっている。 ③音素材の特性を生かし、自由な発想で音楽を構成するための工夫をしている。	①様々な音素材の特性を生かし、表現したいイメージや曲想をもって、リズムや旋律のパターンと反復を用いて、作品を記録したり、創作表現をしたりする技能を身に付けている。

## 9 指導と評価の計画（2時間）

本題材を扱うに当たっての留意点は、「自由創作」の名のもとに、一時的・刹那的な嗜好による音楽活動に陥らないように配慮すること、「感性・創造性」の名のもとに、自己満足的な音楽活動に陥らないよう指導することである。そのために、以下の①～③の段階を意識しながら指導に当たる。

- ① **先行経験などを生かして指導する段階**・・・先行経験を振り返りながら、音や音楽を聴き取る。  
ここでは、特に音色や響きに注目させ、それをどのように感じるかという指導を進める。（自分なりに音や音楽を探る活動・自分のイメージや曲想を生かす音素材を探し集める活動）ただ何となく音を「出してみた」「集めてみた」というレベルにとどめず、音に対する意識や感受性を高める指導を行う。
- ② **さまざま感受（知覚すること・感じ取ること）を大切に指導する段階**  
お互いの音の聴き取り、感じ取り、それぞれのイメージや曲想などを認め合いながら、指導を行う。その際、お互いの知覚・感じ取りを生かすことにより、音楽観や音楽的視野の拡大を図る。
- ③ **音楽活動の枠組みや活動の方向性を明確にして指導する段階**  
②の学習をおして明らかになった点を生かしながら、それが音楽の学習に結びつくように指導を行う。ここでは、リズムや旋律のパターンと反復を中心に進める。  
ジョン・ペインターの言葉『音楽的アイデアは、しっかりした特徴をもたせること』（創作活動の格言）

本題材では、以下の段階を踏んで指導を行う。

### ★第1段階（宿題～第1時）

通学路や家の中など、生徒の任意の場所で、身の回りにある音（自然音・環境音も含む）を聴き、音を取材する。取材した様々な音素材について、音色や響きを知覚するとともに、感じ取ったことを発表し合い、共有する。

題材の導入では、これまでの音楽の授業で学習したことを想起させ、主にどのような学習内容であったかを振り返らせる。事前の宿題として、「みんなに聴いて欲しい音探し」を行い、録音したものや、実際に音素材を持ってくるように指示を出し、第1時の学習に生かす。

授業では、次の2つの観点を示して学習カードにまとめさせる。

- ・様々な音や音楽を集中して聴き、聴こえてきた音の音色や響きについて記入する。
- ・それぞれの音が、例えば、季節を感じる、さわやかさを感じる、騒々しいと感じるなど、自分にどのような感情をもたらしたかについて、感じたことを記入する。

指導内容	評価方法	題材の評価規準との関連
<b>様々な音素材の感受</b>	<b>《観察・学習カード》</b>	<b>観点1-①、観点2-①</b>

### ★第2段階（第2時）

様々な音素材を選び、それらの特性を生かして、イメージや曲想をもって、リズムや旋律のパターンと反復を用いて、創作表現をする。

- ・自然音・環境音も含めたすべての音を視野に入れて、音の特性に関心をもたせるように留意する。
- ・自然音・環境音も含めたすべての音を視野に入れて、音素材を選択し、それらを組み合わせたり、音の出し方を工夫したりしてイメージや曲想をもちながら、創作表現の工夫をする。
- ・リズムや旋律のパターンと反復を用いて創作表現の工夫を行い、実際に創作発表する。

指導内容	評価方法	題材の評価規準との関連
<b>表現したいイメージや曲想</b>	<b>《学習カード》</b>	<b>観点2-②</b>
<b>音楽を構成するための工夫</b>	<b>《学習カード》</b>	<b>観点2-③</b>
<b>創作表現</b>	<b>《観察・演奏発表》</b>	<b>観点1-②、観点3-①</b>

### ★第3段階（もし時間が取れば・・・）

①楽譜の作成による表現、②録音テープの作成による表現、③即興演奏による表現のいずれか（又はそれらの組み合わせも可）による創作表現の発表会を行う。

- ① 楽譜の作成による表現  
→楽譜（作品）を提出する。演奏できる場合は、録音の提出又は演奏発表を合わせて行う。
- ② 録音テープの作成による表現  
→録音テープ（作品）を提出する。楽器の音のみでなく、自然音・環境音などを取り入れることも可能。
- ③ 即興演奏による表現  
→即興演奏を行う。既成の楽器（特殊な奏法を含む）、手作り楽器や改良楽器、声（様々な発声を含む）、音や音楽を録音したテープの再生などを組み合わせることも可能。

指導内容	評価方法	題材の評価規準との関連
<b>自由な発想による音楽の構成</b>	<b>《観察（表現活動の様子）》 《作品や演奏発表》</b>	<b>観点1-②、観点2-③ 観点3-①</b>

10 指導と評価の展開

時間	ねらい・学習活動	具体的評価基準との関連	評価方法等
1	<p>○ さまざまな音素材の音色や響きに関心を持ち、それらを受感する。</p> <p>1 これまでの学習を想起し、声・楽器などの身の回りにある音素材を聴き、その音は何か、その音から感じたことなどを、お互いに発表し合う。</p>	<p>観点1-①</p>	<p>&lt;観察&gt; (発言の内容や挙手による確認) (学習カードの設問1への記入の状況) ・音素材を聴き取ろうとする関心・意欲 ・態度の状況を把握する。</p>
<p>身の回りにある様々な音や音楽を聴き、その特徴を感じ取ろう</p>			
1	<p>2 みんなに聴いて欲しい音素材を紹介し、そのよさや美しさを感じ取る。 音素材の音色や響きの特徴について、感じたことや気付いたことなどを発表し合う。</p> <p>3 本時に学んだことを生かし、他の音素材や楽曲を聴き、何の音か、その音や音楽から感じたことを発表する。</p>	<p>観点2-①</p>	<p>&lt;学習カード&gt; (学習カードの設問2への記入) (発言の内容や挙手による確認) ・音素材の音色や響きについて、知覚したことや感じ取ったことの状況を把握する。</p>
1	<p>○ 様々な音素材を生かし、それらを組み合わせたり、音の出し方を工夫したりして音楽作りをするに関心を持ち、イメージや曲想をもって創作表現をする。</p> <p>1 前時の音素材を振り返って、音や音楽を聴き取る。</p>	<p>観点2-②</p> <p>観点2-③</p> <p>観点3-①</p> <p>観点1-②</p>	<p>&lt;学習カード&gt; (学習カードへの記入) (発言の内容や挙手による確認) ・音素材と受感のかかわりの状況を把握する。</p> <p>&lt;演奏発表&gt; (演奏の内容) ・演奏発表をとおして、本題材の目標の実現状況を把握する。</p> <p>&lt;観察&gt; (演奏発表の様子) ・演奏したり、他の演奏を聴き取ろうとする関心・意欲・態度の状況を把握する。</p>
<p>様々な音素材とそれに対するイメージを生かして、リズムや旋律のパターンと反復を用いて創作表現しよう</p>			

11 本時の展開 (第1時)

時間	ねらい・学習活動	具体的な指導の流れ	資料・教具等
20分	<p>○ さまざまな音素材の音色や響きに関心を持ち、それらを受感する。</p> <p>1 これまでの学習を想起する。</p> <p>2 声や楽器の音を聴き、その音は何か、その音から感じたことなどを、お互いに発表し合う。</p> <p>3 身の回りにある音素材を聴き、その音は何か、その音から感じたことなどを、お互いに発表し合う。</p>	<p>T : これまで音楽の授業で、どんな学習・活動をしてきたか</p> <p>P : 歌→具体的に、合唱、独唱・・・ 楽器→リコーダ・・・独奏、重奏、合奏 音楽作り→具体的に・・・ 鑑賞→どのような曲・・・</p> <p>T : 歌 15-2民謡,10-3歌舞伎,18-58~59歌謡, 楽器 (3種類) リズム遊び</p> <p>T : 27虫の声 何の音?どのような感じ?</p> <p>T : 44猪威し、1-00:55水琴窟、 鳴き砂、鳴き竜 →何の音?どんな感じがする? (何の音かは後で紹介する)</p>	<p>CD カセットテープ</p> <p>CD</p> <p>CD パソコン</p>
20分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>身の回りにある様々な音や音楽を聴き、その特徴を感じ取ろう</p> </div> <p>4 みんなに聴いて欲しい音素材を紹介し、そのよさや美しさを感じ取る。 また、音素材の音色や響きの特徴について、感じたことや気づいたことなどを発表し合う。</p>	<p>P : 何も言わずに・・・ 意識して音を出す・・・</p> <p>T : みんなに録音であれば、何の音か問う T : みんなにどんな感じがしたか問う P : ...な感じがする</p> <p>T : 音を取材した生徒に、なぜ、この音をみんなに聴いて欲しかったか、発表させる。 また、自分は、この音がどんな感じがするか発表させる。 (時間を見ながら、数人に発表してもらう)</p>	
10分	<p>5 本時に学んだことを生かし、他の音素材や楽曲を聴き、感じたことを発表する。</p>	<p>T : 授業の最初に聴いた音の種明かし→ 水琴窟7:00、鳴き砂0:55、猪威し17:50、</p> <p>T : 日本人の音に対するこだわり、自然音なども音楽に取り入れる</p> <p>T : 虫の声、自然音に意味を見いだす・心情や情景を結びつける</p> <p>T : 音のないところにも、意味を見いだす 欧米の人にはない感覚・大切にしたい 欧米の人は鳴き竜などの音を嫌う。 単なる雑音でしかない。 音のないことは、コミュニケーションを絶つことととらえている。</p> <p>T : これらの音や音楽を用いて、創作をしたい。 T : 4曲聴かせる→何の音 1-6「呼びかけ」(声、言葉、リズム、即興) 1-10「世界地図のフーガ」(声、言葉、リズム) 2-3「ロック・トラップ」(身体表現、リズム) 2-4「木片の音楽」(打楽器、リズム、旋律) T : 共通する特徴は何?→リズムや旋律のパターンと反復</p>	<p>ビデオ</p> <p>CD</p>

12 観点別評価の進め方

<p>学習活動における具体的評価規準</p>	<p>おおむね満足できる状況であると判断する具体的な状況例(B)</p>	<p>Bのうち十分満足できる状況であると判断する具体的な状況例(A)</p>
<p><b>【観点1 音楽への関心・意欲・態度】</b>                  ①様々な音素材に関心をもっている。                  ②音素材の特性を生かし、自由な発想で創作表現することに意欲的である。</p>	<p>みんなに聴いて欲しい音素材を探し、発表しようとしている。他の発表から自分なりに感じたことを発表したり、自分の考えを意思表示したり、学習カードに記入したりしている。                  音素材の特性を生かし、自由な発想で音楽を構成する活動に取り組んでいる。</p>	<p>みんなに聴いて欲しい音素材を探し、イメージを伝えるように発表しようとしている。他の発表から自分の感じたことを意欲的に発表したり、意欲的に自分の考えを意思表示したり、学習カードに十分記入したりしている。                  音素材の特性を生かし、イメージをもって、音楽を構成する活動に積極的に取り組んでいる。</p>
<p><b>【努力を要すると判断する生徒(C)への指導の手だての例】</b>                  ・日頃、音楽の授業で学習している「音楽」だけではなく、様々な音素材が学習対象であり、それらの一つ一つの音素材に目を向けさせる。                  ・音色について表現できない生徒に対して、擬音語などの簡便法で記入させる。                  ・どのように表現したらよいか、周囲の生徒と話し合わせる。</p>		
<p><b>【観点2 音楽的な感受や表現の工夫】</b>                  ①様々な音素材の特性を感じ取っている。                  ②表現したいイメージをもっている。                  ③音素材の特性を生かし、自由な発想で音楽を構成するための工夫をしている。</p>	<p><b>第1時学習カードの設問1～3への記入の状況</b>                  ・音素材を聴き、どのような感じがしたか、記入している。  <b>第2時学習カードへの記入の状況</b>                  ・音素材の音色や響きから、イメージや曲想をもち、工夫する内容を記入している。  <b>第2時学習カードへの記入</b>                  漠然としたイメージや曲想をもった記述がある。  <b>活動の様子</b>                  音素材の特性を生かし、音楽を構成する活動に、工夫しながら取り組んでいる。</p>	<p><b>第1時学習カードの設問1～3への記入の状況</b>                  ・音素材を聴き、どのような感じがしたか、それは音のどのようなところからそのように感じたのか、記入している。  <b>第2時学習カードへの記入の状況</b>                  ・音素材の音色や響きから、イメージや曲想をもち、音の出し方などの工夫する内容を具体的に記入している。  <b>第2時学習カードへの記入</b>                  どのようなイメージや曲想をもって創作表現をするかについての具体的な記述がある。  <b>活動の様子</b>                  音素材の特性を生かし、音楽を構成する活動に、様々な工夫をしながら取り組んでいる。</p>
<p><b>【努力を要すると判断する生徒(C)への指導の手だての例】</b>                  ・音素材の特性について、うまく言葉で表現できない生徒に対して、擬音語などの簡便法で記入させたり、擬音語で発表させたりする。                  ・音素材の特性や音に対するイメージをどのように表現したらよいか、周囲の生徒と話し合わせて学習カードに記入したり、発表させたりする。</p>		
<p><b>【観点3 表現の技能】</b>                  ①様々な音素材の特性を生かし、自由な発想で作品を記録したり、創作表現をしたりする技能を身に付けている。</p>	<p><b>演奏発表の状況</b>                  音素材の特性を生かし、自由な発想による演奏をしている。</p>	<p><b>演奏発表の状況</b>                  音素材の特性を生かし、イメージをもって、リズムや旋律のパターンや反復を生かした演奏をしている。</p>
<p><b>【努力を要すると判断する生徒(C)への指導の手だての例】</b>                  ・音素材の具体的な音色などに着目させ、直感的・感覚的に自分なりのイメージを擬音語などでとらえさせ、表現させる。                  ・簡単なリズムや旋律を提示し、それを基にして創作表現に結び付けさせる。</p>		